



発刊にあたって

学校長 熊見一郎

平成7年1月17日未明に突然起きた阪神・淡路大震災により、兵庫県南部地方は未曾有の被害を被りました。この地震の「揺れ」の激しさは想像を絶するものであり、本校生徒2名を含めて6,300人以上の尊い命を奪い、甚大な物的損害とともに人々の心に大きな精神的ダメージを与えました。改めてここに、亡くなられた方々に哀悼の誠を捧げます。

本校は激震地であった長田区において、校舎が特別教室棟を除いて全・半壊という大打撃を受け、一早く須磨校地に仮設校舎を建設し、教育活動を再開しました。しかしながら、「震災に強い街づくり」をするという神戸市の都市計画が発表され、本学園の長田校地は神戸市再開発事業地域に決定されてしまいました。この再開発計画の中に学校の予定はないという状況の中で、神戸市当局と再三再四にわたり協議を重ねましたが、長田の地において数年以内に校舎を再建することは不可能であるとの結論に達しました。市内に適当な代替地のない状況の中で、本学園は新校舎を体育館及び研修棟「自彊館」のある須磨校地に建設することに決定いたしました。

大震災から1年が経過しましたが、今だに震災の爪痕は数多く残っており、街には復旧・復興の槌音が聞こえてはおりますが、まだまだ復興には多くの難問があり、長い時間がかかると思われます。

この大震災について本校としての記録を残し、震災直後に本校の教職員・生徒が何を考え、どう行動したかを記録にとどめ、次世代へ語り継いでいくものとして貴重な記録になるよう、「阪神・淡路大震災の記録」を発行することにいたしました。この記録には、震災による教訓として、防災に対する取り組み、自然に対する畏敬の念、他者を思いやる心、助け合う心、家族の絆、命の大切さなど、本校教職員並びに生徒の様々な思いが込められており、将来の貴重な資料にしたいと存じます。

震災後、本学園に対しましては、多くの方々から温かい励ましやお見舞いのお言葉をいただきました。この度の被災からの立ち直りに勇気を与えて下さった多くの方々のご支援に厚く御礼申し上げますとともに、希望と夢をもって未来に向かって羽ばたいていく学校づくりをめざして、本学園復興のために最大の努力をしまっている所存でございます。

最後になりましたが、この記録が本校で生の教材として活用され、次代を担う若者に「心豊かに生きる力」「未来を拓く力」を育むことを期待し、被災地の復興の日が一日も早く来ることを祈念して発刊の言葉といたします。